川島さん氷彫刻また日本一

新阪急高知シェフ

復興への夢 不死鳥に託す

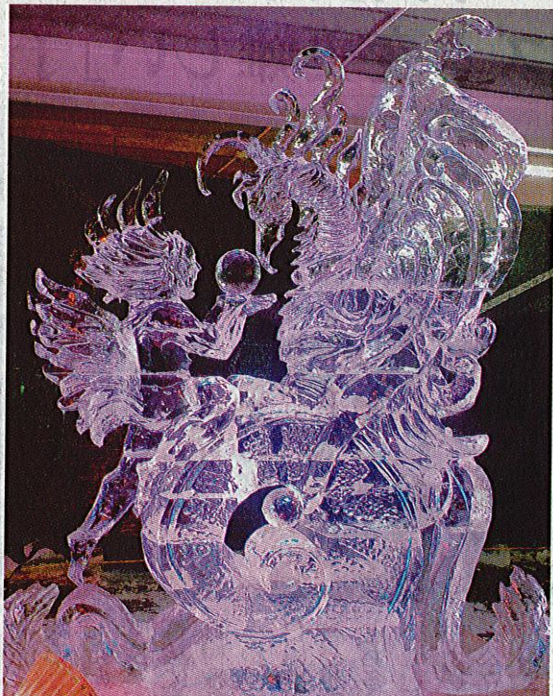
氷の彫刻技術を競う「第10回六甲山氷の祭典　NPO法人日本氷彫刻会全日本コンテスト」で、ザ　クラウンパレス新阪急高知（高知市本町4丁目）の副総調理長、川島豊さん（52）が最高賞の兵庫県知事賞に輝いた。東日本大震災からの復興を願い、不死鳥・フェニックスと天使を大胆かつ繊細に表現。第8回大会に続く2度目の快挙を果たした。（伊賀大祐）

コンテストは神戸市の実行委員会が2005年から毎年開催。今年は2月20～23日、同市の六甲山山頂付近にある駐車場を会場に、14都府県から25人が出場した。創造性や芸術性とともに、4日間の展示に耐えうる安定性などを競った。

川島さんの作品は、癒やしをテーマにした「天使のセラピア」。再生のシンボル、フェニックスが優美に羽を広げ、天使が夢と希望、感謝を込めて光の玉をささげる構図だ。

開幕前日の午後5時から翌日午後1時までの20時間、ぶっ通しで作業。川島さんは設計図を基に、まず高さ1㍍、幅50㌢、重さ135㌔の氷柱8本を積み上げた。チェーンソーで大まかな形を作った後、「東日本大震災の犠牲者への鎮魂の祈りと、復興、再生への希望を託したい」との思いを込め、細かい線をドリルでひたすら彫った。

「六甲山—」には過去4回出場し、一昨年の初優勝も含め毎回入賞。2度目の栄冠に「多くのお客さんに楽しんでもらえたことがうれしい」と川島さん。「ただ年齢的にもきつくなってきたので、技を受け継ぐ〝次の川島〟を育てたい」と、後継者の育成にも意欲を見せている。



最高賞を受賞した川島さんの「天使のセラピア」（神戸市灘区＝六甲山氷の祭典実行委員会提供）

「見る人に感動を与える作品を作りたい」と話す川島豊さん（高知市のザ　クラウンパレス新阪急高知）

県内支社局
幡多支社
☎0880・34・3151
FAX0880・31・0125
宿毛支局
☎0880・63・2525
FAX0880・62・0230
清水支局
☎0880・82・0113
FAX0880・82・1349
窪川支局
☎0880・22・0101
FAX0880・22・0660
須崎支局
☎0
FAX0